

鹿児島県立串木野高等学校

総合的な探究の時間（地域探究）：「串木野学」
～郷土愛を育み、いちき串木野市の発展に
寄与する人材の育成を目指して～

1 学校の概要

本校は鹿児島県本土の西部で隣接した市来町と串木野市の二市町が平成16年の市町村合併により、いちき串木野市として誕生した街の串木野側にあり、県庁所在地の鹿児島市から車で1時間程度の街である。（ちなみに、いちき串木野市は、ひらがな3文字+漢字3文字で合計6文字の日本一長い市名である。）現在、市の人口は2.5万人程度で人口減少にともなう、生徒数の減少が続いており、令和6年度の全校生徒は117人で生徒募集に苦慮している。

令和3年度から、これまでの総合的な学習の時間を見直し、「串木野学」と命名した総合的な探究の時間の活動が現在まで続いている。具体的な内容として、地元串木野を知ること、課題を発見すること、課題解決の提案をすること、これらを3年間の学びの柱に据えて、外部との連携、高校生ならではのアイデアの創出などを考えている。この活動を通して、地域を愛し、将来、地域の発展に寄与する人材育成を目指すだけでなく、これらの活動を地域の方々に知ってもらうことにより、地域から愛される学校を目指し、そのことが入学生の増加につながることも期待している。

2 事業の概要

(1) 事業のねらいや目標

ア 概要

本校のあるいちき串木野市は、他の多くの地方自治体と同様、人口減少及び少子高齢化等の問題を抱えており、今後ますます若者を中心とした移住促進の手立てが必要である。また、本校は募集定員確保が喫緊の課題であり、そのためには地域に愛される学校となることが重要であり、この「串木野学」の活動を通して、その具現化を図る必要がある。さらには、自らの進路志望に関わる視点で地域の抱える問題点を見つめることで、生徒の職業観を高め、将来的な資質・能力を高める必要がある。

上記の必要性をもとに、地域社会の将来を担う人材の育成を目指し、地域産業や行政、大学等の協力機関と協働し、本市が抱える課題を見つけ出し、それに対する解決策を主体的に考え出す。その過程を通じて、郷土に更なる愛着を持ち、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成するとともに、地域振興の核としての本校の一層の機能強化を目指す。

イ 育成する人材像

以下の3点の人材育成を目指すこととする。

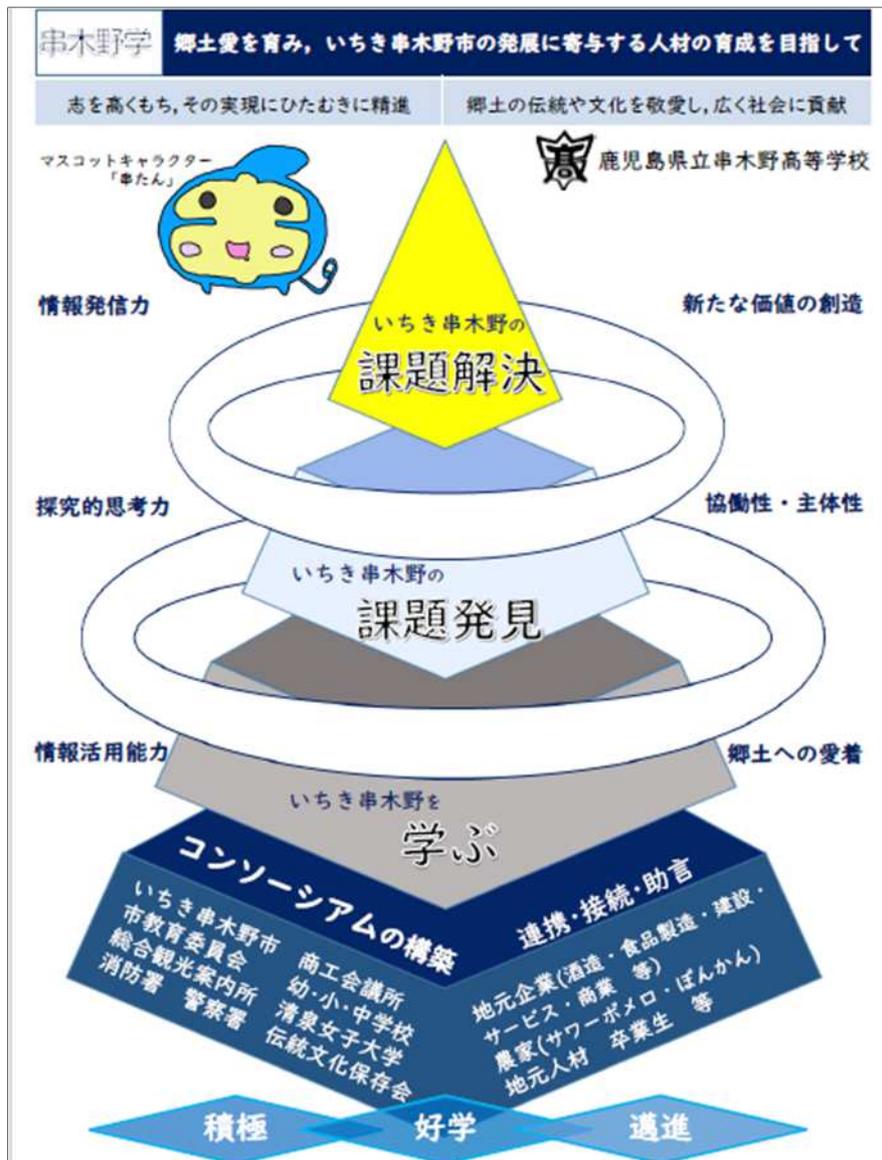
- (ア) 探究型学習を通して、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決しようとする人材
- (イ) 郷土に対する愛着を持ち、郷土の持続可能な社会の作り手となる人材
- (ウ) 個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出す人材

ウ 期待される効果

以下の3点を期待される効果とする。

- (ア) 地元企業等と協働的に課題を発見し、その解決策を考える活動を通し地元から愛される魅力ある高等学校づくりの促進
- (イ) 様々な地域の実情及び課題等を学ぶ中で、郷土愛を育み、将来的に地元に戻り地元活性化の担い手になろうとする意識の向上
- (ウ) 探究活動を通して自らの進路を考えることにより、よりよい社会の担い手になろうという意識の向上

(2) 事業のイメージ図



3 事業の経過

日	内 容	参加者
5 月		
20 日	オリエンテーション	1, 2 年生
27 日	最終報告会クラス予選	3 年生
	手法を学ぶ①（ブレインライティングを活用しての思考の構造化）	1 年生
6 月		
3 日	手法を学ぶ②（K J 法）	1 年生
10 日	第 1 回講演会	1 年生
7 月		
1 日	第 2 回講演会	1 年生
2 日	「串木野学」最終報告会	全校生徒
	第 1 回コンソーシアム会議	管理職，探究係職員，運営指導委員
14 日	さのさ祭り参加	有志生徒及び職員
22 日～	第 1 回関連企業等訪問	2 年生
8 月		
9 日	「高校生よかアイデア課題探究発表大会」参加	3 年生 2 グループ
9 月		
19 日	第 1 回外部講師によるワークショップ	1 年生
30 日	第 2 回外部講師によるワークショップ	1 年生
10 月		
26 日	中間報告ポスター展示（文化祭）	2 年生
11 月		
7 日	清泉女子大学本校訪問	全校生徒
1 月		
31 日	国分高校 S S H 最終発表会参観	2 年生 11 名
2 月		
10 日	探究テーマ発表会	1 年生
14 日	地域企業訪問	1 年生
上旬～	第 2 回関連企業訪問	2 年生
3 月		
14 日	第 2 回コンソーシアム会議	管理職，探究係職員，運営指導委員

4 事業の内容

(1) 探究学習の流れ

ア 1年次…「いちき串木野を学ぶ」

探究学習において必要な基礎的なスキルを習得することを目標とし、問いの立て方や思考ツールの紹介（ブレインライティング）（図1），KJ法（図2），外部講師によるワークショップ（2回）を行った。また「地域の課題を知る」というテーマのもと、市役所や地元企業の職員、地域の伝統文化保存会等様々な方々に講演をお願いした。最終的には、年度末に分野別テーマについてまとめの発表会を実施している。

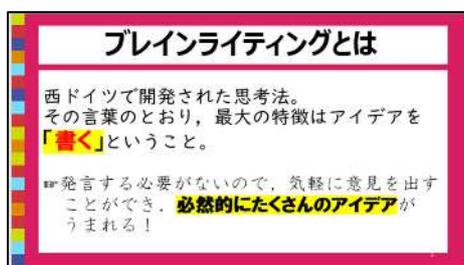


図1 ブレインライティング

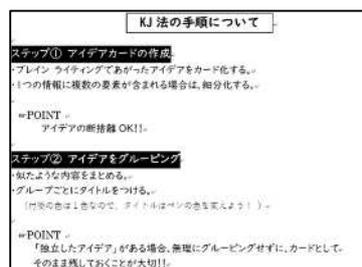


図2 KJ法

イ 2年次…「いちき串木野の課題発見」

6月までに探究テーマを設定する。そして、そのテーマに関連する企業や自治体等を年に2回訪問する。1回目（8月）の目的は、設定した課題テーマに関連する地元企業等を訪問し、各企業等が抱える課題及びその対策を教えていただき、より地元との関わりの深いテーマに設定し直すことである。2回目（2月）の目的は、生徒自身が考えた解決策に対してのアドバイスをいただき、よりよい解決策の提案につなげることである。これら2回の訪問や中間発表会を経て、最終報告会に向けて研究を進めていく（図3・4・5）。



図3 会社訪問①



図4 会社訪問②



図5 会社訪問③

ウ 3年次…「いちき串木野の課題解決」

探究テーマに関する研究のまとめを発表する場として、7月に最終報告会を実施する。クラス予選会を経て、ステージ発表とポスター展示に分けている。

(2) 外部との連携（本年度実施分）

ア いちき串木野市の現状や課題についての講演会（1年生：2回実施）

(ア) 第1回（令和6年6月10日）

串木野さのさ保存会会長（図6）と濱田酒造株式会社（図7）の職員の2名を招聘して講演会を実施した。テーマはそれぞれ「保存会の紹介」、「本市の伝統文化の現状」、「今後、高校生に考えてほしいこと」と「仕事内容の紹介」、「地元で働くことについて」、「本市の産業の課題」、「今後、高校生に考えてほしいこと」であった。講師2名の貴重な話を生徒達は興味深く聴講していた。講演後には質疑応答の時間を設け、生徒による質問が活発に行われていた。



図6 講演会①



図7 講演会②

(イ) 第2回（令和6年7月1日）

いちき串木野市役所から企画政策課とシティーセールス課の職員の2名を招聘して講演会を実施した（図8）。テーマは「仕事内容の紹介」、「地元で働くことについて」、「本市が抱えている課題」、「今後、高校生に考えてほしいこと」の4つであった。生徒にとって馴染みのない市役所の仕事内容や本市の抱えている課題を知ることができ、生徒達はメモを取りながら、熱心に聴講していた（図9）。



図8 講演会①



図9 講演会②

イ 探究学習に関するワークショップ等（1年生：2回実施）

(ア) 第1回（令和6年9月19日）

いちき串木野市「食のまちづくり」推進に携わる専門コーディネーターの方を講師として招聘し、「探究テーマの設定に向けて」というテーマでワークショップにつながる講演をしていただいた（図10・11）。講話の中で、様々な地域の先行事例を紹介していただいた。具体的には「いちき串木野市『食のまちづくり基本計画』」、「さつま町『きららの楽校』」、「霧島アートの森『つくるスポーツ／するアート展』」等である。

(イ) 第2回目（令和6年9月30日）

第1回と同じ「探究テーマ設定」というテーマで、ワークショップ形式で体験型学習を行った（図12・13）。



図10 講演会①



図11 講演会②



図12 ワークショップ①



図13 ワークショップ②

ウ 清泉女子大学教授及び学生による本校訪問（令和6年11月7日）

いちき串木野市と「連携・協力に関する協定」を締結している清泉女子大学の教授である山本達也氏と学生2名が本校を訪問した。

(ア) 山本教授による講演会

全校生徒対象に、「デジタル時代の串木野学への迫り方」というテーマで講演をしていただいた。探究学習の意義や手法及び必要なスキルの説明や、ローカルな観点だけでなくグローバルな視点を持つことの重要性など、非常に丁寧にわかりやすく話をしていただいた（図14・15・16）。



図14 講演会



図15 山本教授による講演

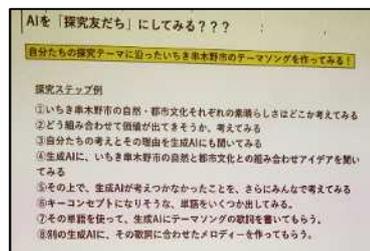


図16 スライド

(イ) 山本教授及び学生による探究サポート指導

2年生全グループが、中間報告発表用のポスターを用いて、プレゼンを行った（図17）。それぞれのグループに対して、山本教授と学生2名からアドバイスを受けた（図18）。また、最後には、山本教授から、今後の探究活動に対する指導講話をしていただいた（図19）。



図 17 プレゼン



図 18 学生によるアドバイス



図 19 教授による講話

(ウ) 山本教授による職員向け研修及び本校生徒と学生との交流会

「『コンセプト』を核とした探究学習のポイントと可能性；清泉女子大学地球市民学科の25年を振り返りながら」というテーマのもと、職員向けの研修をしていただいた（図20）。

大学や他校における事例をもとに、「総合的な探究の時間」における探究型学習の意義や目的を説明していただいた。また、同時進行で図書室にて本校の1，2年の特進コースの生徒と学生との交流会を実施した。大学や受験，学生生活の説明をしていただき，その後は生徒からの質問に答えていただいた（図21）。



図 20 職員研修



図 21 学生との交流会

(3) 各発表会（時系列）

ア 最終報告会クラス予選（3年生：令和6年5月27日）

最終報告会を7月初旬に実施するため，5月下旬～6月初旬に学年予選を行っている。その中から，例年4～5グループを選び，本選に出場させ，残りのグループはポスター展示を行うこととなっている。選考方法は，審査員（本校職員）と生徒全員の評価点数をもとに，学年職員での合議の上，決定している。今年度は3年生11グループで予選を実施し，4グループが本選出場となった（図22・23）。



図 22 発表



図 23 観衆生徒及び職員

イ 最終報告会（3年生：令和6年7月2日）

これまでの探究活動の成果を発表する最終報告会をいちき串木野市民文化センターで実施した。予選を通過した4グループが、パワーポイント等のスライドを用いてのステージ発表を行い、残りのグループは、ホワイトボードにてポスター展示を行った。会場には、全校生徒及び職員だけでなく、来賓や保護者や地域の方々、近隣の中学校の先生方も見に来てくださった。ステージ発表の部は、外部の6名の方々（副市長、市企画政策課長、市教育委員会教育総務課長、市商工会議所事務局長、市商工会議所青年部会長、市観光案内所職員）を招聘し、審査、質疑及び講評（副市長）を依頼した。講評においては、地域と共に学ぶことの重要性や郷土に対する愛情を育むことの大切さ等を御教示いただいた。なお、来賓及び審査員の方々には、感想や来年度に向けての提言等をアンケート形式でお願いした（図24・25・26・27）。



図24 発表



図25 ポスター展示



図26 質疑応答

串木野学最終報告会 審査用紙		審査員【 様】				
評価項目	評価のポイント	審査員	良い	悪い	不明	
内容	地域（いちはら市や串木野）や社会問題等に関する内容があるか	1	2	3	4	5
	発想の発露、創意発露があるか	1	2	3	4	5
	資料、現地調査、アンケート、実験なども行い、物証は必要事項を揃えているか	1	2	3	4	5
	結果は発表目的のある内容となっているか	1	2	3	4	5
表現	結果は発表目的のある内容となっているか	1	2	3	4	5
	結果を踏まえた上で、今後の課題や展望が記述されているか	1	2	3	4	5
発表資料	発表内容や発表の目的が明確であり、視覚的にわかりやすく整理されているか	1	2	3	4	5
発表態度	聴衆への敬意や礼儀が適切であり、発表の態度が適切であったか	1	2	3	4	5
合計					20	

図27 採点用紙

ウ 高校生よかアイデア課題探究発表大会（3年生：令和6年8月7日）

鹿児島国際大学主催の標記大会に3年連続参加している。今年度も、最終報告会で入賞した2グループが本校を代表して参加した。他校のレベルの高い発表の中、臆することなく審査員からの質問にもしっかりと応答していた。他校の探究学習の状況を知る良い機会でもあった（図28・29）。



図28 発表



図29 質疑応答

エ 中間発表会（2年生：令和6年10月26日（文化祭））

2年生は、文化祭で、中間発表としてポスター展示を行っている。1つの教室を「総合的な探究の時間」用にし、各グループ（今年度11グループ）が作成したポスターを展示し、外部の方々にも観覧していただく機会を設けている（図30・31・32）。



図30 展示の様子



図31 ポスター①



図32 ポスター②

オ 探究学習発表会（1年生：令和7年2月10日実施予定）

1年生は、1年間学習した内容をスライドにまとめ、発表会を予定している（図33・34）。



図33 発表（昨年度）



図34 聴衆（昨年度）

5 事業の成果とその評価

(1) 生徒の変容及び課題解決の状況等

この「串木野学」を通じた本校生の具体的な変容としては、以下の7点がある。

ア 主体性と自主性の向上

探究活動では自らテーマを選び、自主的に調査・研究を進めることが求められる。この過程で、生徒たちは主体的に行動する力を養い、自分自身の学びに責任を持つ姿勢が育まれている。

イ 問題解決能力の向上

地域の課題に対する解決策を模索することで、生徒たちは論理的な思考力や創造的な問題解決能力を身に付けた。実際の社会課題に対する解決策を考える経験は、将来役立つスキルとなる。

ウ コミュニケーション能力の向上

地元と関わる機会が増えた。地域住民や企業関係者とのインタビューの場での質疑応答を経験することで、コミュニケーション能力が向上し、他者と協力しながら物事を進める力が身に付いた。

エ 地域への愛着と理解の深化

地域密着のテーマを扱うことで、自分たちの住む場所について深く理解し、愛着を持つようになった。これにより、地域社会に対する関心が高まり、将来的に地域貢献を志向する意識が育まれる。

オ プレゼンテーション能力の向上

成果をプレゼンテーション形式で発表することで、情報を整理し、効果的に伝える力が養われた。自分の考えを明確に伝える能力を高め、自信を持って発言する力が身に付いた。

カ 実践的な学びの経験

実際のプロジェクトを立ち上げたり、提案した改善策を実行に移す経験を通じて、学んだことを実際に役立てる力が養われた。生徒たちは意義を実感し、実践的なスキルを身に付けた。

キ 協力とチームワークの重要性の認識

他の生徒や地域の人々と協力して取り組むことで、チームワークの重要性を理解し、協力しながら成果を上げる方法を学んだ。実際の社会での協力関係を築く力が身に付いている。

上記のように、これらの変容を通じて、本校生徒たちは、より自立し社会的な視野を広げ、将来に向けての準備を進めることができるようになっていく。

(2) 成果物等（一部抜粋）

ア 民謡継承をテーマにしたグループが、地元民謡「さのさ」を現代風にアレンジした曲を作った。市から高い評価を受け市内全域に流れる防災無線の音楽に採用された（図 35）。〔本年度卒業生〕



図 35 市役所訪問

イ さのさ保存会による講演会やさのさ踊りの練習会を通して、さのさ祭りに興味を抱く生徒が増え、7月に開催された「さのさ祭」の参加生徒が過去最高となった（図 36）。〔本校有志〕



図 36 さのさ祭当日の様子

ウ いちき串木野市のコーヒー文化に焦点をあてたグループが本市のコーヒー店のパンフレットを作成し、店頭に置いていただいた（図 37・38）。[3年生]



図 37 店長との打ち合わせ



図 38 実際のパンフレット

エ L G B T Qの問題をテーマにしたグループが、啓発活動の一環としてポスターを作成した（図 39）。メンバーは本市のパートナーシップ宣誓制度検討会に高校生代表として参加した（図 40）。このポスターやリーフレットは校内に掲示するだけでなく、市役所や図書館、近隣の中学校にも掲示をお願いした。[3年生]



図 40 検討会



図 39 実際のポスター

オ 2年生のグループが、地域の祭りや踊りを身近に感じてもらうことを目的にマスコットキャラクターを作成し、地元の菓子店と協力し、そのキャラクターが載ったサブレを開発した（図 41・42）。それを文化祭や地域の祭りで販売した（図 43）。[2年生]



図 41 作成中の様子



図 42 完成したサブレ



図 43 文化祭での販売

(3) 評価

評価については、毎時間の取組や中間発表や最終報告会の成果物及びアンケート等を通して、以下の3観点で行っている。

ア 知識・技能

評価の趣旨「探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している」

中間報告レポートや最終報告プレゼン及びレポートを通して、探究型学習を習得しているかを評価のメインとしている。「総合的な探究の時間」だけでなく、教科横断型・総合型の指導を通じて、より深く理解し、汎用性のある力の育成に努めるよう工夫している。

イ 思考力・判断力・表現力

評価の趣旨「実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している」

授業での取組状況や中間報告レポートや最終報告プレゼン及びレポート等を通して、自らで問いを立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているかを評価するよう努めている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

評価の趣旨「探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている」

授業等の取組状況の観察やレポート・プレゼンだけでなく、事後アンケートを実施して、協働性や主体性及び地域に貢献する気持ちが育まれたか等を評価するよう努めている。

○ アンケート結果 ※ 回答者数 18名（本校3年生19名中）

Q1 この学習を通じて、本市のことをより知ることができたか？	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>50%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>44%</u>
変わらない	3%
当てはまらない	3%
全く当てはまらない	0%

[生徒の感想]

- ・ いちき串木野市について知らないことがたくさんあった。人口が少なかったり、町に活気がなかったり、課題がたくさんあることが分かった。
- ・ 他のグループの発表を通して、よりいちき串木野市を知ることができた。

Q2 この学習を通じて、本市に対する郷土愛は大きくなったか？	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>28%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>67%</u>
変わらない	1%
当てはまらない	1%
全く当てはまらない	3%

[生徒の感想]

- ・ 高校入学して初めていちき串木野市を知ったが、自分も住んでみたいと思うようになった。
- ・ 小さな町だけど、素敵な美容室ばかりで、改めて素敵な町だなんて思った。

Q3 この学習を通じて、本市をよりよい町にしたいという気持ちは大きくなったか？	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>39%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>44%</u>
変わらない	17%
当てはまらない	0%
全く当てはまらない	0%

[生徒の感想]

- ・ 医療関係で困っている人が多いことが分かり、助けてより良い町にしたいと思った。
- ・ いちき串木野市の魅力を知ったので、他県や他市の人々に知ってもらいたいと思った。

Q4 探究型学習を理解できるようになったか？[知識・技能]	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>39%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>50%</u>
変わらない	10%
当てはまらない	1%
全く当てはまらない	0%

[生徒の感想]

- ・ 最初は理解できなかったが、進めていくうちに学習方法を理解できるようになった。
- ・ この学習法がとても大事なことだと思った。

Q5 自分で課題や問題点を発見できるようになったか？[思考力]	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>22%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>61%</u>
変わらない	2%
当てはまらない	1%
全く当てはまらない	14%

[生徒の感想]

- ・ 今まで見えてなかった問題を目にすることで、その解決策を考えようとしたり、またそこから新たな課題の発見につながったりした。
- ・ 新聞等を通して、何が起きているかを考えるようになった。

Q6 課題解決のために情報を集めそれらを整理・分析できるようになったか？[判断力]	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>33%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>61%</u>
変わらない	2%
当てはまらない	1%
全く当てはまらない	3%

[生徒の感想]

- ・ 集めた情報の中から、重要度の高いものや解決に必要なものを選定できるようになった。
- ・ 情報リテラシー力が高まった。

Q7 自分の考えをまとめ、それをうまく表現できるようになったか？[表現力]	%
<u>とても当てはまる</u>	<u>39%</u>
<u>当てはまる</u>	<u>50%</u>
変わらない	1%
当てはまらない	1%
全く当てはまらない	9%

[生徒の感想]

- ・ 相手に考えを伝えるためにどのようにすればいいかを考える良い機会となった。
- ・ パワーポイントの作成において、より効果的な方法を知ることができた。

◇ 主体的・協働的に取り組むことで、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度の育成[学びに向かう力]を図る質問

Q8 「上記以外で身についたと思う能力は何ですか？」

- ① コミュニケーション能力
 - ・ 自分の意見を伝えたり、相手の意見を尊重するようになった。
- ② 協働力
 - ・ メンバーと共に試行錯誤を繰り返していく過程が大変だったけれど、すごくためになった。
- ③ 行動力
 - ・ やるべきことが多かったが、それらを積極的に行ったことで、行動力がついた。
- ④ 積極性
 - ・ 身近な問題に対して、自分に何かできることがないか考えるようになった。

Q9 「『総合的な探究の時間』の学習を終えての感想」

- ・ 自分の住む町に対する考えが変化し、自分にできることはないか考えるようになった。
- ・ 市役所を訪問した中で、市役所の方々がいちき串木野市のために頑張っていることが分かった。
- ・ この学習で学んだことを生かし、将来に役立てたいという気持ちが強くなった。
- ・ 以前は都会に住みたいと思っていたが、この学習をしていくうちに、いちき串木野市の良いところがたくさん発見できて、この町を大切にしたいと思うようになった。

6 今後の課題

(1) 探究テーマの設定について

本校は「地域探究」に特化し、自らの興味・関心や進路志望に関わるテーマ設定をさせているが、探究学習の目的を生徒が明確に理解していない場合、生徒のモチベーションの低下や、生徒間の取組に差が出る場合がある。このことに関しては、1年次のオリエンテーションの充実や、「探究学習」の意義をテーマにした講演等を実施することで改善したい。

(2) 指導体制について

探究テーマの設定や指導方法に多様性が要求されるため、教員側だけでは指導の負担が大きい。また、生徒の自主性を重視しすぎると、何もしない生徒が出てくる。さらに本校は「総合的な探究の時間」が各学年1単位しかないため、その時間内での指導には限界がある。このことに関しては、外部の企業や自治体との連携を通して、協働的な取組を推進することや地元大学と連携し、指導体制の強化が必要だと考える。

(3) 評価の難しさ

評価について、「成果重視」か「過程重視」かが曖昧なため、生徒のモチベーションの維持が困難になっている。特にグループ活動を行っている場合は、生徒間の差が大きい。また、「成果重視」の場合、教師側の主観が大きくなり、公平性や一貫性を欠く可能性がある。このことに関しては、毎時間、自己評価をさせたり、明確な評価のためのルーブリックの作成等が効果的だと考える。

7 協働先一覧

No	協働先	所在地	主な内容
(1)	いちき串木野市役所	いちき串木野市	・問題発見，解決のアドバイザー ・最終報告会における審査 ・講師派遣 ・ワークショップ
(2)	いちき串木野市観光案内所	いちき串木野市	・問題発見，解決のアドバイザー ・最終報告会における審査
(3)	いちき串木野市教育委員会	いちき串木野市	・最終報告会における審査
(4)	いちき串木野市商工会議所	いちき串木野市	
(5)	濱田酒造	いちき串木野市	・問題発見，解決のアドバイザー ・講師派遣
(6)	串木野さのさ保存会	いちき串木野市	
(7)	清泉女子大学	東京都	
(8)	川内南中学校2年生	薩摩川内市	・アンケート協力
(9)	珈琲堂ジャマイカ	いちき串木野市	・問題発見，解決のアドバイザー
(10)	勘場蒲鉾	いちき串木野市	
(11)	日高水産	いちき串木野市	
(12)	菊屋	いちき串木野市	
(13)	浜崎蒲鉾	いちき串木野市	
(14)	いちき串木野市包括支援センター	いちき串木野市	
(15)	九州電力薩摩川内複合施設センノオト	薩摩川内市	